

校長だより



願い、実現

令和8年3月13日

No.11

附属特別支援学校

小松 賢吾



【学校教育目標】

「自らの力をじゅうぶん発揮し、主体的に取り組む生活を今と将来にわたって実現する児童生徒の育成」

【みんなの合言葉】「『自分から 自分で せいっぱい』 願い実現 楽しい附特」

校地内には、オオイヌノフグリも咲き始め、春の訪れを感じる頃となりました。ありがたいことに、強い寒さを感じる日数や降雪は、例年よりも少ないまま冬が終わりそうです。年が明け、令和8年が始まったと思ったばかりなのに、2月に教育実習があったからなのか、あっという間に3学期が終わり、本日、第51回卒業式を無事挙行いたしました。学校運営にご協力いただいた保護者の皆様、地域の皆様、心より感謝申し上げます。

教育実習の先生たちとの生活

前回お知らせした2週間の教育実習が無事終了しました。最初のころには、遠慮がちに関わっていた子どもたちも、最終週には実習の先生に自分から声を掛けてお話をしたり、自分から手を引いて一緒に校内を巡っていたりして、至る所で仲睦まじくしている姿がありました。真っ直ぐな子どもたちに、どの学生も本当に真摯に向き合い、その子の行動の理由を考えたり、その理由に合わせた対応を考えたりして、徐々に子どもたちの世界に入り込んでいった実習生たちの姿には、短期間によくもこれほど成長するものだと、吸収力や実践力に驚くばかりでした。

実習を終えて実習生たちにアンケートをとったのですが、今回の実習で「教職に魅力を感じた」と100%の学生が回答してくれました。また、一般企業への就労を決めていたり、大学院への進学を考えたりしている学生を含め、今回の実習を通して「教職が進路を考える選択肢の1つになった」と答えた学生も96%でした。本校の実習が、実習生たちの子ども観や教育観を揺さぶり、人生をも変える契機になったのかもしれない。

ある学生の実習後レポートに、「特別支援学校の教師になりたいという気持ちは、憧れから確信へと変わった。」という一文がありました。是非特別支援学校の教員になり、いつか附特へ戻ってきてほしいですね。



おわかれかい(小)・卒業を祝う会(中、高)

3月は別れの季節。3月3日におわかれかい・卒業を祝う会が、部毎に行われました。どの部でも卒業生に「ありがとう」の気持ちと「おめでとう」の思いを込め、会場の装飾をしたり企画を用意したりしました。参観日を兼ねていたので、卒業学年以外の保護者の方にも一緒にお祝いをしていただきありがとうございました。小学部では、各学級で選んだ曲に合わせて歌ったり、踊ったりしました。中学部では、校歌ダンスを楽しんだり合唱をしたりしました。また、交流を重ねてきた長野中の3年C組さんや、初めて本校に来てくれた1年C組さんも参加して、それぞれに歌をプレゼントしてくれました。各部では、映像で一年を振り返るとともに、在校生から卒業生へ、卒業生から在校生へ手作りのプレゼントやアレンジフラワーなどが贈られ、心のこもった温かな会となりました。4月からは次の場所へとステップアップしていく卒業生、そして引き継いだ在校生。本年度在籍した皆さんの、今後の更なる活躍に期待したいと思います。



卒業式の生花は、高等部で9日に行われたフラワーアレンジメントの一部でもあります。

